

## 台湾南部の補習班

- 日本人教師の問題を中心に -

(財)交流協会日本語専門家 泉史生

この度、高雄市・台南市・屏東市・嘉義市にある約25カ所の日本語補習班<sup>(1)</sup>を訪ね、その現状について調査した。日本語補習班のタイプには、大きく分けて台北などに本部を置く全国展開の補習班とそれぞれの地域に開設した独立採算型の補習班の2種類があり、そこでは幼児教育から社会人を対象としたものまで、幅広く日本語教育が行われている。

### 南部の補習班の特徴

現在、南部(雲林以南)の補習班では約50名の日本人教師が日本語を教えている。そのうち高雄市が全体の半数を、台南市が三分之一を占め、嘉義市には4人、屏東市には3人の日本人教師が勤務している。

#### 高雄市

人口150万人。台湾経済を支える台湾第二の都市。天然の良港を持つ港湾都市として発達し、近年工業都市、商業都市として変貌を遂げている。最近、どのような理由か、補習班の日本語学習者数は減っているとされている。市内には全国展開の最大手の補習班の分校が4カ所あり、そこには日本人教師が10人登録されている。彼らは教える時間と場所が決められており、その4校の幾つかを回って日本語を教えている。独立採算型の補習班の場合、日本人教師は一人二人の所が多く、規模はそれほど大きくはない。企業などに派遣され日本語を教えることもあるが、基本的にはそこに勤務している。語学の補習班の場合、英語を中心に日本語やその他の言語を教えるのが普通であるが、高雄市では、そのような補習班の中で日本語だけを教える所がその半数を占める。また、その中には日本人教師のいない日本語補習班も幾つかある。

#### 台南市

人口75万人。補習班の多くは企業派遣を行っており、台南科技工業区、台南科学工業園区、地元



大手企業との連携を深めている。そのため、台南市にあっては大学生・一般社会人の他、企業派遣が大きなウエイトを占めているというのが特徴である。以前は日本人教師のいる日本語補習班は限られていたが、今はどこの補習班でも複数の日本人教師が勤務している。高雄と違うのは一校あたりの日本人教師の数が多く、全国展開の補習班よりも独立採算型の補習班の方が活発であるところだろう。

#### 屏東市

人口21万人。ここには、全国展開の補習班が1校ある他、幼児教育において日本語も教えるトリリンガル<sup>(2)</sup>の補習班や、児童を対象とした日本語補習班もある。

#### 嘉義市

人口26万人。雲林・嘉義地区最大の都市である。日本語補習班は2校あり、全国展開の補習班が市内に1校と、独立採算で経営している補習班が1校ある。ここには日本人教師が4人登録されている。人口の規模から見ると、この地域には日本語補習班の数は少ない。

### 補習班の日本人教師の問題

台湾全体にも言えることだが、補習班の日本人教師の中には、1年ないしは2年、台湾で日本語教育の経験を積み、スキルアップを目指す人も少なくない。高雄市、台南市の補習班には経験豊富な日本語教師が、経験の浅い教師をカバーしている所もあるが、中にはクラス運営に悩みを抱えている教師がいることも事実である。補習班の経営者にとって見れば、クラス運営は取りも直さず経営にも影響してくる。そのため補習班の教師にと

いろいろは

っては自分の受け持っているクラスの学生を何人残せるか、何人継続させることができるかがその教師の評価に繋がるので、プレッシャーも大きい。

おそらくそのような悩みは、日本人のみならず台湾人日本語教師にとっても同じであろう。現在、交流協会日本語センター及び高雄事務所では教育部国際文教処との共催により、補習班の日本語教師もその対象に含む各種研修会を無料で行っているため、是非これらの研修会を活用していただきたい。ここでは日本語教育に関する各分野の最新の情報を得ることだけでなく、教育機関を超えた日本語教師間のネットワークを広げ、日本語教育という目的を同じくする者同士の、様々な情報の共有の場となるだろう。

なお、研修会に関する情報は、今ご覧になっている『いろは』や交流協会日本語センターのホームページに掲載してあるのでご利用いただきたい。

- (1) 学校教育以外の予備教育機関・塾・私的教室のこと。
- (2) ここでは中国語・英語・日本語を同時に教えること。

## 台湾南部的補習班

### - 以日籍教師的問題為中心 -

最近、爲了調查台灣南部日語補習班的現況，筆者拜訪了高雄市、台南市、屏東市、嘉義市約 25 所的補習班。臺灣補習班的種類大致分爲把本部設於台北的全台連鎖式補習班，以及於各地區開設的獨立經營的補習班兩種，招生對象自幼兒至成人，範圍相當廣泛。

### 南部補習班的特徵

目前，於南部（雲林以南）的補習班任教的日籍教師約有 50 名。其中高雄市約佔半數，台南市佔三分之一，嘉義市 4 人，屏東市 3 人。

#### 高雄市

人口 150 萬人。爲支持台灣經濟發展的第二大都市。得利於天然良港而快速發展的高雄，近年逐漸轉型爲一工商業都市。近來不知爲何，日語學習人數不如往年的說法卻時有耳聞。而全台最大的外語補習班在高雄市有四家分校，共有 10 名日籍教師，於固定時段來回於分校上課。其他獨立經營的補習班，大部分日籍教師只有一兩位，相對的規模也不大，雖然也有外派至公司企業教授日語，但基本上還是在補習班裡上課居多。台灣一般的外語補習

班，皆以英語爲主，另兼有日語或其他外語課程，但在高雄，約有半數的補習班只教日語，其中也包括不具日籍師資的補習班。

#### 台南市

人口 75 萬人。大多數的補習班有企業派遣教學，與台南科技工業區、台南科學工業園區、及地方大企業的合作相當密切。因此除了以大學生、社會人士爲對象的正規班外，企業派遣班也佔了相當大的比重，成爲台南市的特徵。從前台南市有日籍教師的日語補習班屈指可數，但現今每家至少都聘有兩位以上的日籍教師。和高雄的主要差別是，台南的補習班各校平均的日籍教師人數較多，且獨立核算式的補習班比全國連鎖式來得興盛。

#### 屏東市

人口 21 萬人。本市除了有全國連鎖式補習班一所，另有幼兒教育的三語（中文、英語、日語）幼稚園，及兒童日語補習班等。

#### 嘉義市

人口 26 萬人。爲雲林嘉義地區最大的都市。但日語補習班僅有全國連鎖式補習班及獨立經營的補習班各一所。本市日籍教師有四名，以人口的規模來看，本區日語補習班數量偏低。

## 補習班日籍教師的問題

這或許可說是台灣全體的現象，即是補習班的日籍教師中，有不少是爲了累積教學經驗及提昇教學技巧而來臺教一、兩年的教師。在高雄市、台南市，雖然有些補習班能以經驗豐富的教師，來補這些新手教師之不足，但事實上無法順利掌握課程而孤立無援的新手教師仍然存在。以補習班經營者的角度來看，班級的口碑會直接影響整個補習班的營運。因此教師所帶的班級裏有多少學生留下繼續學習，就成爲評價教師的依據，這帶給了教師們莫大的壓力。

像這樣的問題，不單是日籍教師也是本國籍教師的煩惱。現在，交流協會日本語中心及高雄事務所，與教育部國際文教處共同爲日語教師舉辦各種免費的研習會，也歡迎在補習班任教的老師們踴躍參加。希望這樣的研習會，不只能提供日語教育各領域最新的資訊外，更能建立超越機關界限的聯絡網，成爲對日語教育有志一同的教師們交換心得的地方。

另外，關於研習會的消息，請參照今後的『いろは』季刊或日本語中心的網頁，歡迎老師們報名參加。

## 第十回 50年の日本語教育と台湾への影響

(財)交流協会日本語専門家 藤井彰二

昭和20年(1945)8月15日の日本の敗戦により、50年余に及んだ台湾への植民地支配は終結した。台湾人に対する50年間の教育がもたらしたものは、端的に言えば、日本語使用の強制と風俗習慣の日本化であったが、それは台湾人を日本人と同等に扱うためのものではなく、皇国の臣民にすることを目的としていた。

日本語普及運動により、終戦前、表面的には「国語解者率」は上がったが、その数字には短期学習で学んだ学習者も含まれており、結果として発音や表現の誤謬を伴った台湾独特の日本語が流布した。また日本語は語彙の面でも台湾語に影響を与え、現在でも「オートバイ」「アタマ コンクリ」「アッサリ」など何百もの単語が普通に使用されている。台湾人にとって日本語はただの使用言語であっただけでなく、思想表現の手段へと質的にも変化していった。反日本植民地作品を発表した台湾文学者たちも、台湾語の文字表記に整った体系がなかったことなどの理由で、作品は日本語で書く以外に方法がなかった。

しかし、日本語での教育が全島に普及したために、日本語は有史以来、初めて漢人、原住民相互間の共通語となり、その各族群間融合の一助となった。言語学者の吳守禮は、日本語が終戦当時の台湾の言語社会形態にもたらしていた影響について次のように述べている。「知識人の話し言葉は大部分が台湾語であったが、...語彙には日本語と日本語の語法が混じっている。中年の人々は...大部分が日本語を話し、日本語を読み、日本語を書くことができる。人によっては日本語教育を受けたために、その思考も日本語の語法で行う。若年層は日本語を習得したのみでなく、台湾語を全く話せない者もいる。実質的にこの世代が最も日本語から離脱し難い層である<sup>(1)</sup>。」

50年間の日本教育で日本語を「国語」にさせられてしまった台湾の人々は、戦後、新たな国語(北京語)を受け入れることとなった。

(1) 吳守禮「台湾人語言意識的側面觀」『台湾新生報』

1946年5月21日付



『台湾文学』同人。台湾作家たちは、日本語で反日本植民地作品を書いた。写真:『講座台湾文学』(国書刊行会)より

## 第十章 50年の日語教育及給臺灣の影響

昭和20年(1945)8月15日日本戦敗、結束了臺灣50年の日本殖民時期。簡而言之、50年間日本教育帶給臺灣人的，是被強迫使用的日語及日本式的風俗習慣。但推究其目的並非將臺灣人與日本人至於同等地位，而是將臺灣人歸化爲皇國の子民。

日語普及運動の推行，表面上雖然使終戦前の「國語解者率」昇高，但事實上此數字也包含了短期的日語學習者，結果使得發音或表現上謬誤的、獨特的「臺式日語」在臺灣廣爲流傳。此外，日語也影響了臺語的語彙，比如「歐多拜」、「阿達馬空古力」、「阿沙力」等上百個辭彙的表現，現今也普遍地爲臺灣人所使用。對於臺灣人而言，日語不只是一種單純的、被使用的語言，而在本質上也變化成一種思想表現的手段。甚至於連發表反日本殖民作品的臺灣文學家，因爲台語文字沒有統一的表記系統，也只能以日文來寫作。

但也因爲日語教育普及全島，使得日語成爲有史以來漢人與原住民之間共通的語言，成爲促進各族群融合的助力。語言學家吳守禮對日語於終戦當時帶給臺灣語言社會形態的影響，做出以下的評論：

「智識人的話語雖然大都是臺灣話.....詞彙裏已經摻了不少日本語和語法。中年人.....大都能操日本語，看日本書，寫日文，有的更因受的是日本語教育，所以走思路作思想都用日本語的語法。.....年輕人這一層不但學會了日本語言，有的簡直不會說臺灣話。實際上爲最難脫離日本語的一層。」

而在50年日本教育中，被迫將日語當做「國語」的臺灣人們，戰後則再次地接受新的國語(北京話)。

## 第一回日本語教育実践講座

1月3日(土)、交流協会高雄事務所において「第1回日本語教育実践講座」が行われた。緒方智幸氏(東海大学専任講師)を講師に招き、「教室活動の考え方と実践 - 多人数教室で行う教室活動例 - 」と題して行われた今回の講座は、会場の定員を上回る参加者が集まった。



「初級クラスで興味を持続させる授業」では授業初日に何を行うか、教える順番はどうするか、「いろいろな文型練習」では、多人数クラスで行う問答練習、ゲームやインタビューによる練習、川柳や四コマ漫画を使った練習等が、具体的な教材や実践例とともに紹介され、「短劇を通しての会話指導」では授業の様子がVTRで紹介された。

補習班・中等教育機関・大学と、台湾での豊富な教授経験を踏まえた緒方氏の取組みは、参加者各々の教育現場における課題認識とその解決に向けたヒント・アイデアとなり、活発な質疑応答に繋がった。また休憩時間や講座修了後に参加者同士の意見交換が積極的に行われたことも開催目的に適ったことであり、今後も同様の催しを定期的に行っていきたいと考える。

交流協会高雄事務所主催「第二回日本語教育実践講座」は、4月11日(日)、教育部国際文教処との共催事業として文藻外語学院(高雄市三民区)を会場にして行われます。詳細は各教育機関に送付した案内状及び、(財)交流協会高雄事務所ホームページ(<http://www.koryutk.org.tw/>)を参照ください。



## 日本語文学会年度大会

2003年12月20日(土)台北YMCAにおいて日本語文学会年度大会が開催された。午前は日本から招かれた3人の講師による特別講演が行われた。一人目は谷脇理史氏(早稲田大学文学部教授)「近世日本の出版取締りと文学者の対応 - 仮名草子、浮世草子を中心に - 」というテーマで、近世前期の文学の、これまであまり取り上げられることのなかった一側面についての講演。二人目は長友和彦氏(宮崎大学教育文学部教授)「第二言語習得と教師の役割: 学習者の日本語習得過程に教師はどのように関われるか? 」というテーマで日本語の事例を通して、目標となる言語形式への学習者の気付きから学習者によるその言語形式の使用という習得過程における教師の関わり方について話された。最後に野田尚史氏(大阪府立大学総合科学部教授)は「新しい日本語教育文法」について、これまでの「日本語学」と「日本語教育」の関係を批判的に検討し、新しい日本語教育文法のあり方を紹介された。午後は3会場に分かれ、台湾の研究者を中心に文学、語学、教育の分野の研究発表が行われた。

## 日本語学会例会

第182回、第183回例会がそれぞれ1月17日(土)2月21日(土)YMCA 城中会場にて行われた。発表者及びテーマは以下の通り。

1月17日(土)は、邱若山氏(静宜大学副教授)「芥川龍之介・中島敦における芸術・芸術家の課題 - 『秋山図』、『山月記』と『名人伝』をめぐる - 」、楊錦昌氏(輔仁大学副教授)「日本古典文学教育の課題と実践 - 輔仁大学におけるマルチメディア活用の試みを中心に - 」、葉淑華氏(明道管理学院副教授)・張秀玲氏(明道管理学院講師)「評価法におけるエクセル活用の試み」。

2月21日(土)は、まず原土洋氏((財)日本語教育振興協会専門委員会/輔仁大学客員教授)より、「学習者にとっての『日本事情』」をテーマに講演が、続いて黄鈺涵氏(早稲田大学大学院)・平澤佳代氏(朝陽科技大学)より研究成果が発表された。テーマはそれぞれ、「『ようだ』の婉曲表現としての機能分類について - 日本語教育の立場から - 」、「『 - つづける』に見る語結合と意味 - 中国語との比較対照の観点から - 」。

## 台湾応用日語学会定例会

12月27日(土) 高雄市立三民家事商業高級職業学校にて「台湾応用日語学会特別講演会、及び第三回研究例会」が行われた。特別講演会は陳政雄教授(中山大學企管所)による講演「失敗に学ぶ日本」、研究例会は高雄第一科技大学大学院生三名の発表があった。なお当日は「高中職教師部会」の準備会合も併せて行われ、南部地域を中心に中等教育機関の日本語教師が集まった。高中職教師部会及び次回会合は4月下旬を予定している。

## ロータリークラブ主催

### 中部地区大学学院日本語スピーチコンテスト

2月28日(土) 台中市福華飯店において中部地区の日本語教育の促進と、日本語学習の奨励を目的に台中・台北・高雄ロータリークラブ合同主催による日本語スピーチコンテストが開催され、9校26名の学生が日頃の学習成果を競い合った。日本語専攻の部では静宜大学の黄秀華さんが「片思い」というテーマで、非専攻の部では中興大学の呉蕙姍さんが「痩せ過ぎも危ないよ」で、見事なスピーチを披露し、優勝の栄冠を勝ち取った。

## 銘傳大学 2004 国際学術研討会

3月12日(金)銘傳大学桃園校にて、2004年国際学術研討会が行われた。銘傳大学では毎年学術研討会を開催しているが、今年度は「応用語文教育的理論與實際」をテーマに日本語教育や日中対照研究だけでなく日本経済に関する発表も行われた。また去年に続き大学院生の発表も行われた。発表テーマは「観光日本語の文型についての一考察」、「台湾現行日語学習雑誌之結構分析」、「日本語教育における初級音声指導の試み」、「日本網路即時新聞之応用」、「日本語能力測驗成績結果之分析」、「日中同形動詞の誤用と習得について」、「日本のFTA 戦略への試論」など多岐にわたっている。

「研討会に向けて研究し発表していくことは教師にとって重要なことであり、今までこのような発表の場が少なかったが近年増えてきたことは大変良いことである。現在は大きなテーマで研討会を行っているが、今後はもっと細分化されたテーマ、例えば応用日語学科の問題点、カリキュラムの問題点などをテーマにした研討会を行っていきたい。また銘傳大学の大学院生だけでなく他大学の大学院生にも発表の機会を与えていきたい」と林長河氏(応用日語系主任)は話す。

## 交流協会の閲覧室

(財)交流協会台北事務所閲覧室(3階)では、日台交流センターの書籍約8,000冊、日本語センターの書籍約2,000冊を収蔵しています。日台交流センターでは日本や台湾に関する政治経済、社会、芸術、文化、文学などの図書文献だけでなく、ビデオテープ500本、日本の大学や日本語学校などの入学案内、各種雑誌を取りそろえています。日本語センターも日本語及び日本語教育関係の最新の書籍のほか、教材用のビデオテープや録音テープを250本ほど所蔵しています。

閲覧室ではビデオやテープの視聴などもでき、勉強したり本を読んだりするための設備も整っています。日本語を学習したい方、日本語教師の方、日本に関して調べたい方など、皆様のご利用をお待ちしています。

### 《サービス業務》

- ・図書などの貸出

日台交流センター及び日本語センターの図書  
(各一人三冊、合計六冊まで、期限は二週間)

- ・ビデオ・録音テープの視聴

### 《利用者カードの申請》

身分証明書(パスポート可)をご持参の上、所定の用紙に必要事項を記入してください。

### 《開館時間》

月曜日～金曜日(交流協会の公休日を除く)

(午前)9:15～11:30

(午後)14:00～17:00



## 日本語教育冬期研修会



(柳町智治先生)



(岡田みさを先生)

1月31日(土)から2月7日(土)にかけて高雄(交流協会高雄事務所) 台中(東海大学) 台北(交流協会日本語センター)と、それぞれ二日間の日程で「2003年度日本語教育冬期研修会」が開催された。研修会では柳町智治氏(北海道大学留学生センター助教授)、岡田みさを氏(藤女子大学文学部講師)を講師に迎え、「日本語の自然会話はどのように組み立てられているのか - 教室での『より自然な会話』の指導を目指して - 」をテーマに、日本語の教室活動に自然会話を取り入れることの重要性が話された。

まず岡田氏より自然会話と教科書の会話は違うのかという観点から、近年の談話分析や会話分析における研究成果が紹介され、それを基に既製の教科書の会話を自然会話に近づけ書き換えるという作業が行われた。岡田氏の講義ではこれまでの日本語の授業における会話文の既成概念が取り払われ、これからの会話授業のあり方について示唆された。

柳町氏は日本語母語話者と非母語話者との会話がどのように組み立てられているのか自然会話の実例を取り上げ、発話だけではなく非言語情報や会話の場にあるモノが自然会話の重要な要素になっていることを指摘、そしてそれが教室での教師と学生とのインタラクションとどう違うのかが分析された。

また、それぞれの会場での二日間の研修は、講師、参加者との活発な意見交換が行われ、議論が深められた。その中で、「より自然な会話」とは何なのか、その会話教育のためには教師は何をすべきなのか、ということについて話し合われ、多くの参加者からはその糸口をつかめたという声が聞かれ、大変有意義な研修会となった。

## 中等教育機関日本語教師研修会

1月10日(土)講師に河村裕之氏(淡江大学日文系専任講師)を迎え、2003年度第20回中等教育機関研修会が開催された。テーマは「日本語教育を通して『異文化理解』を考える」。講義を通して、「日本文化」「異文化理解」等の科目がなくても、また初級や中級の学生に対しても、教科書や教材、台湾社会に溢れる日本の情報を安易に一般化することは避け、新たな日本理解へのステップにつなげるための「留保」の重要性が強調された。続く小グループでの検討会では、日本語の授業で見かけられる学生のさまざまな言説から、日本語を教える上で受講者がぶつかった「文化の壁」について、大変熱のこもった議論が交わされた。



また、3月13日(土)には講師に陳慶彰氏(東呉大学/泰北高中講師)を迎え、「高校生に日本文化をどう教えるか」をテーマに第21回研修会が行われた。講師はこれまで台北市内のいくつかの高校で「日本文化講座」を担当し、



日本の伝統文化である生け花、茶道、また紙粘土を使った日本人形の創作を通して日本文化を高校生に教えてきた経験がある。現在所属している泰北高中では、美術の時間に上記の活動を取り入れ日本文化を紹介している。

これまでの言語面、日本語教育からの視点ではなく、別の視点から学習者に日本を意識させ、日本文化に興味を持ってもらおうという一試案である。この視点が日本語学習への動機付けになるかどうか、どうすれば日本語教育に生かすことができるかについても講師、受講生が共に考えた。

なお、今後行われる研修会は教育部文教処より認定を受け参加認定スリップを発行する。「教師分散式新修研修カード」を持っている方は、研修会の際に忘れずにお持ちいただきたい。

## 特別研修会

1月10日(土)、第5回特別講演会が行われた。講師は加藤清方氏(台湾大学文學院客員教授/東京学芸大学教育学部言語文学第一学科教授)。テーマは「学習者の情報処理過程と日本語教育 - 言語理解、認知科学、IT活用の諸問題を中心に - 」。まず、教育の国際化、異個性を重視した教育への変化など学校教育の現状が紹介され、情報量・具体性と記憶との関係など学習者の言語理解過程・情報処理過程に配慮した日本語教育の内容・方法、教材、メディアの使用について提言された。また、漫画の持つ機能を活かした教材開発の実例や、メディア教材の実例を見ながら、IT活用の可能性やメリット、デメリット等について活発な意見交換が行われた。



2月14日、原土洋氏(財)日本語教育振興協会専門委員会/輔仁大学客員教授)を講師に迎え、第6回特別講演会が行われた。テーマは「日本語学習と習得、その上に日本事情」。講演では、まずは教室での『学習』、次に設定され作られた環境での『習得』が行われ、いわゆる『語学力』の基盤ができあがった上で日本事情が行われるのではなく、『学習』の段階から、少なくとも『習得』の段階から『日本事情』的配慮がなされるべきであると提言された。また、日本の地理・歴史の事象に象徴される文化的事象が『日本事情』であり、それが『言語』的に表れるのは『固有名詞』またはそれに準ずる物であるとし、歴史上の人物、事象、地名、人名等を『学習』『習得』の場に取り入れる必要性が強調された。



## 日本語センターの研修会

日本語センターでは台湾の日本語教育レベルの向上を目的とし、現場で活躍されている日本語教師を対象に「中等教育機関日本語教師研修会」「日本語教育夏期・冬期研修会」「特別講演会」を無料で開催しています。この度、日本語センター・高雄事務所文化室の研修会は全て教育部国際文教處との共催で行うこととなり、今後も参加者の希望に添うようなより充実した研修会などを予定しています。台湾の日本語教師の皆様、是非当センター及び高雄事務所文化室の研修会をご活用ください。

### 中等教育機関日本語教師研修会

第21回 4月10日(土) 14:00~17:00

講師:阿部洋子(国際交流基金日本語国際センター講師)

テーマ:「海外の高校における日本語教育の現状」

受付期間:~3月26日(金)

第22回 5月8日(土) 14:00~17:00

講師:泉史生(交流協会高雄事務所日本語専門家)

テーマ:「グループ活動を取り入れた教室活動

- 様々な活動と発表形式を中心に - 」

受付期間:~4月23日(金)

第23回 6月12日(土) 14:00~17:00

講師:林明煌(嘉義大学助理教授)

テーマ:「教育課程学の視点から見た日本語教育のあり方」

受付期間:~5月28日(金)

### 2003年度文化講演「語り」

講演者:小島光代

(長唄一人、三味線一人、ピアノ演奏一人)

演目:夕鶴

日時:6月11日(金)(午後3時頃を予定)

会場:(財)交流協会台北事務所

問合わせ:台北事務所事務所文化室

(02-2713-8000 担当:菊地 内線2400)

### 第二回日本語教育実践講座

主催:交流協会高雄事務所・教育部国際文教処

日時:4月11日(日) 13:30~16:30

会場:文藻外語学院(高雄市三民區民族一路900號)

講師:阿部洋子(国際交流基金日本語国際センター講師)

テーマ:「海外の高校における日本語教育の現状」

受付期間:~3月30日(火)

問合わせ:交流協会高雄事務所文化室

(07-771-4008 担当:石川)



## 台湾日本語文学会例会・講演会

台北市 YMCA 城中會所にて以下の日程、発表者により例会が行われます。

4月例会：4月17日（土）／新井芳子（育達商業技術学院講師）  
范淑文（台湾大学助理教授）

5月例会：5月15日（土）／鄭智恵（大同大学講師）

6月例会：6月19日（土）／蘇文郎（政治大学副教授）  
賴衍宏（銘傳大学講師）

林弘仁（久留米大学大学院生）

7月例会：7月17日（土）／高惠玲（慈濟大学）

詳しくは、（<http://www.scu.edu.tw/japanese/TJA-index.htm>）参照。

## 輔仁大学第五回中世学術研討会

日時：3月26日（金）27日（土）

会場：輔仁大学聖言楼百鍊展演中心

テーマ：「日欧中の中世文学における無常観」

問合わせ：輔仁大学日語系（沈助教：02-2903-1111 内線 2596）

詳しくは、（<http://www.fl.fju.edu.tw/medieval/5th/program.j.htm>）参照。

## 台湾南部日本語教師会定例会

日時：3月27日（土）10:00～12:00

会場：高雄市立高雄高級中学活動中心3階会議室

テーマ：「日本語ディベートの教育 その指導と実際の大会運営報告」

発表者：小高裕次氏（文藻外語学院日本語文系助理教授）

関口要氏（南台科技大学応用日語系専任講師）

問合わせ：国立成功大学外文系 26614 号室（FAX：06-238-7730）

## 2004 年度全国大專校院日本語スピーチコンテスト

主催：台湾日本研究学会

日時：3月27日（土）

会場：国立台湾師範大学教育大樓 2F

問合わせ：台湾日本研究学会聯絡處所（劉修慈小姐：02-2704-2962）

## 日本語ディベート交流会

参加校：淡江大学技術学院・南台科技大学・文藻外語学院

日時：4月24日（土）

会場：淡江大学技術学院 5F 校友会館

問合わせ：淡江大学技術学院応用日語系（02-2358-1829 内線 55）

## 2004 南台科技大学語文教育国際学術研討会

日時：6月18日（金）19日（土）

会場：南台科技大学国際会議庁

問合わせ：南台科技大学応用日語系（06-253-3131 内線 6300/6301）

## 台湾の大学の日本語演劇

台湾の語学教育においては教室活動に寸劇を取り入れることがよくあり、大学などの外国語学科などでも卒業に際し演劇発表会を行う所があるが、それを毎年楽しみにしている人も多い。内容については様々で、現代の世相を風刺したものから、日本のテレビドラマをヒントにコミカルにアレンジしたもので、プロの俳優も舌を巻くほどである。

真理大学

時間：4月21日（水）18:00～

場所：真理大学音楽庁

タイトル：「船乗りプクプクの冒険」

淡江大学

時間：4月30日（金）18:30～

場所：淡江学生中心

タイトル：「柱」

成功大学

時間：5月13日（木）（予定）

場所：成功大学

銘傳大学

時間：5月26日（水）18:00～

場所：桃園キャンパス S 棟 104 教室

タイトル：「星に願いを」



## 『いろは』3月20日号 目次

- 1 2 台湾日本語教育情報源
- 3 日本語と台湾
- 4 日本語教育ニュース
- 5 「閲覧室」からのお知らせ
- 6 日本語センターの活動報告
- 7 日本語センター研修会のお知らせ
- 8 台湾日本語教育関連情報

### 情報をお寄せください

台湾の日本語教育に関する情報を募集しております。また、本誌『いろは』に対するご意見やご要望もお待ちしております。詳細は日本語センターまでお問い合わせください。

TEL：02-2713-8000（代表）

FAX：02-2713-0705

E-mail：nihongo@mail.iapan-taipei.org.tw